

「未来をになう長浜っ子」育成プロジェクト 第2回ワーキング会議 議事要点録

I 日時 令和元年6月20日(木) 15時15分～16時50分

II 場所 長浜市役所本庁舎 1階 多目的ルーム3

III 出席者 清水香奈委員 伏木和雅委員 水上真哉委員 三宅諒委員
池戸里江子委員 沢村志穂委員 落合明優委員 藤井朋之委員
鈴木梨紗委員 藤田淳子委員 大窪景子委員 嘉瀬井弘美委員
雀部敬人委員 教野直子委員

【事務局】横尾教育委員会事務局次長、伊藤教育指導課長、河瀬副参事、
山岡主幹、三輪主幹、長屋主幹、城楽学力向上推進員

IV 内容

1 開会 教育委員会事務局次長より開会のあいさつ。

- 先日市内の小学校3年生の子どもが増水した川に流されて命を落とされるという痛ましい事故があり、子どもたちの命を守ることの難しさと大切さを改めて実感している。心からご冥福をお祈りする。
- 先日ノーベル医学生理学賞を受賞された山中伸弥先生の講演会が本市の健康0次クラブの主催で行われ、出席する機会をいただいた。「iPS細胞がひらくこれからの未来」という演題で、興味津々で聞かせていただいた。中学生130人、高校・大学生200人が参加したが、若者向けにお話された中で、「一つの研究結果を出すにはものすごい労力と時間がかかるが、どうか皆さん、世の中のためになることに努力してほしい」とおっしゃった。
- これは、子どもたちが夢を持ち、人やものに関わって自分の道を切り拓き、少しでも世の中のために役に立つ、そんな子を育てようとする、この未来プロジェクトの目的とも重なると改めて感じた。
- もう一つ、担当から話があると思うが、長浜青年会議所の皆さんが7月14日に「エドテック」に関するシンポジウムを開催される。先生方にもご参加いただければと思う。
- 今日は2回目となるが、お忙しい中お集まりいただいている先生方に、少しでもよかったなあといえるものを持って帰っていただきたい。このことも、この会議のねらいの一つでもある。楽しく、盛り上がりのある会議にしていきたい。

2 説明 第1回の会議のふりかえりと今回の会議のねらいについて、事務局より資料にもとづき説明。

3 グループ協議 A、B、Cの3グループに分かれてグループ協議。

テーマ：「未来をになう力」（「未来を拓く学力」「自分と向き合う力」「自分を高める力」「他者とつながる力」の4つの力）を育成するための学校教育における具体的な取組

<各グループ共通> 「未来を拓く学力」を育成するための取組について

< Aグループ > 「自分と向き合う力」を育成するための取組について

< Bグループ > 「自分を高める力」を育成するための取組について

< Cグループ > 「他者につながる力」を育成するための取組について

4 全体共有 各グループでの協議内容を発表し、全体で共有。

◇ 共通テーマ「未来を拓く学力」を育成するための取組について

【Cグループ】

- 自分たちで授業をつくりあげる。教師主導ではなく、学んだ知識を寄せ集めて自分たちで答えが見つけれられたという実感を伴うことができれば、知識としても残っていくのではないか。
- 小中連携。異学年交流などを行うことで視野が広がる。
- 行事の企画。普段、子どもたちがこういうことをやりたいと思っても、時間に追われてさせてやれない現状がある。子どもたちの柔軟な発想を生かした企画、運営ができれば、と思う。
- 長浜市のことをもっとよく知るための、自分たちでつくりあげる学習ができると、未来につながる力が育っていくと思う。ただ、日々学習の進度に追われ、慌ただしい毎日を送る中で、こういったことに頭がまわらない現実がある。何か、市全体で変えていく必要があると思う。また、クラスの中での学力差があり、こういった大きなテーマに適応していけない子どもの実態も課題としてある。

【Aグループ】

- 批判する力を育てる。情報を鵜呑みにせず、批判してみる力をつける。そのためには新聞の要約などを行うことで、自分なりの考えを持ったり、授業で討論をしたりすることでそういった力をつけていけるのではないか。
- 教師自身の指導力の向上。互いの授業を参観し合うなどして向上していく。
- 行事等で自分たちが企画する力をつけること。但し、カリキュラムの範囲内でやることは難しい課題がある。
- 何より、学力をつける上には、素直で自制心を持った生徒を育てることが大事。そのような生徒を育てるために何をしていけばよいか。教育全体の中で、また家庭との連携の中で育てていく必要がある。
- ICT活用については、まず触れる機会を増やすことが大事。ただ、学校によって環境が違うところが課題である。

【Bグループ】

- ICT活用等、情報活用能力については正しい使い方を学習させていく必要がある。活用のためには、教師の側が研修を行って生徒に教えることのできる能力をつけていく必要がある。多くのソフト、機器に触れる機会を増やしていきたい。
- 判断力の育成として、道徳科の充実が考えられる。教科書以外にも、教材の開拓を行う。
- 表現力の場の設定として、発表の機会、プレゼンテーション大会なども行っていくとよい。
- 市全体で統一されたカリキュラムを作っていけるとよい。探求的な学びとしてアクティブラーニングが言われて久しいが、具体的にどうするか、もっと学んでいく必要がある。
- 本を読むことで知識を増やし、ビブリオバトルなどの取組で読む機会を増やしていく。
- 多様な考え方ということで、パフォーマンス評価といった新しい評価の基準があってもいいのではないかと、子どもを見る視点を転換していくことも必要。
- 発想力をつけていくために多様な交流も大切。
- 基礎・基本の充実、定着の取組も必要。

◇ 各グループごとのテーマについて

【Bグループ】「自分を高める力」を育成するための取組について

- 特別活動の充実。活躍できる場を生徒会活動、学級活動等でいかに仕組んでいくか。その中で、生徒自身が段取りや企画を行っていく機会が必要。子どもたち一人一人の個性に合った活躍の場が持てるとよい。
- 未来への期待ということでキャリア教育が一つの鍵だと考える。将来を考えるとということで、職場体験を実施し、仕事について学んでいるが、体験したい仕事を自分で見つけることも大切ではないか。
- 行動力・向上心を伸ばしていくためには、手ごたえのある問題にぶつかって、それを解決していった後の達成感を味わわせることが大事だ。一人では解決することが難しい問題をグループで解決していく授業形式もあっていい。
- 失敗や間違いからも学べる、そういった授業があってもよい。
- 自分で計画を立てていくことが大切。一人ひとりにスケジュール手帳を持たせている学校もある。
- 部活動が大切という意見もあったが、時間の確保や内容の充実が必要となる。

【Aグループ】「自分と向き合う力」を育成するための取組について

- 自己決定をさせることが大切。いろいろな選択肢があって、自分はこうだと選択できる場の設定が必要。
- 自分に自信がないと自己決定することができない。小さなことからスモールステップで達成していくために、小さなめあてやそれに対する評価、達成感が得られるような課題をやり遂げていく経験が必要。その中で認めたり、ほめたりしながら活動を進めていくことが大事。
- 活動をやり遂げていく中で、姿勢の保持も難しい子どももおり、体力の向上も必要。
- 自信をつけるということで、生徒の活躍の場を設けていくことが必要。最低のルールを決め、子どもたちが「こうしたい」という思いを生かして生徒が主体となってやれる機会を設けていく。
- 他の人が自分をどう見ているかを知る活動もよい。例えば、道徳の中で、エンカウンター的な活動の中で、自分のこんなところがよいとほめてもらえるような場面があるとよい。
- キャリア教育も大切。将来やりたいことを学ぶ中で、今自分は何ができるかを考えながらやっていけるとよい。さらにいろいろな体験をする中で、自分にもこんなことができるという自信をつけてあげられるのではないか。

【Cグループ】「他者とつながる力」を育成するための取組について

- 他者とつながるいろいろな経験をする。例えば、他己紹介をすることで自分にはこんなよさがあったのだと気づくことができる。また、たてわり活動などで、みんなで活動して、みんなでもめて、みんなで解決していくという一連の流れをたくさん繰り返すことが必要。
- 自分の思いを語り、周りがそれを聞くといった、話す・聞くの活動。こうした経験をたくさんつむことが、他者とつながるときの糧となる。
- 表現の方法を知る機会を増やす、教えるだけでなく、経験させる場を増やしていくこと。他者とつながるときに言葉が乏しかったり、表現方法が十分でなかったりする現状がある。以前のように、地域の大人と関わって学ぶ機会が少ないことを考えると、学校で言葉をたくさん学ばせる、うれしいとか腹が立つという感情もたくさん表現方法があるこ

とを教えていくこと、子どもたちに（表現の）引き出しを増やしてあげることも大切だ。

5 事務連絡 事務局より先進地視察研修について連絡。

6 閉会 教育指導課長より閉会のあいさつ。

- うまくいかないと人のせいにするという傾向が社会のいろいろなところにあることを強く感じる。それではだめで、私たちの仕事は、目の前にいる子どもたちに「じゃあ自分は何ができるの」という考え方を育ててあげる、やり方はそれぞれでも、こういう考えの人が増えていって、自分の得意なことで役に立っていく子どもたちを育てていけば、未来の長浜、未来の国は変わっていく。
- みなさんのやっていたいことが、そんな人・まちづくりにつながっていけばと思っている。二回にわたり、皆さんのエネルギッシュな話に参加できたことをうれしく思う。引き続きよろしく願います。